

第 2 次苫小牧市食育推進計画の目標と実績

基本 目標	指標	参考 (H28 年度)	前回事 (R3 年度)	今回事 (R8 年度)	目標値 (R8 年度評価)	達成 度
「食」を学び、健康なからだをつくりま す	朝食を毎日食べている人の割合	(小学生) 84.7%	(小学生) 85.2%※1	(小 6・参考値) 78.0%※2	100%に 近づける	(D)
		(15 歳以上) 75.4%	(15 歳以上) 69.5%	(15 歳以上) 69.2%	81.3%	C
	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を 1 日 2 回以上ほぼ毎日食べている人の割合	—	46.1%	40.1%	50%以上	D
	肥満の割合	(3 歳) 5.1%	(3 歳) 5.8%	(3 歳) 5.6%※3	現状値以下	A
		(小学生) 10.4%	(小学生) 12.7%	(小学生) 12.7%※4	8 % 以下	C
		(中学生) 12.3%	(中学生) 13.1%	(中学生) 14.5%※4	10%以下	C
		—	(20～60 歳代 男性) 32.6%	(20～60 歳代 男性) 38.3%	28%以下	D
	地元（苫小牧、北海道）産の食材を食べることを意識している人の割合	43.8%	45.1%	44.8%	60%以上	C
「食」を楽しみ、感謝 の気持ちを育みます	食品ロス削減を意識して実践する人の割合	76.1%	79.9%	80.9%	85%以上	B
	朝食と夕食のどちらか、もしくはどちらもほぼ毎日家族と一緒に食べる人の割合（週 4 日以上）	—	80.5%	80.2%	現状値以上	C
	食育に関心がある人の割合	59.9%	57.8%	60.2%	83.2%	B

達成度…A：目標を達成、B：目標未達だが改善傾向、C：変動なし～悪化傾向、D：悪化傾向（5%以上）

※1：学校保健会調査 ※2：R7 全国学力・学習状況調査 ※3：R7 苫小牧市 3 歳児健康診査 ※4：R7 苫小牧市小中学校肥満やせ調査

達成度	件数	該当指標
A (目標を達成)	1	肥満（3歳）
B (未達だが改善傾向)	2	食品ロス削減の実践、食育に関心がある割合
C (変動なし～悪化傾向)	5	朝食（15歳以上）、肥満（小学生）、肥満（中学生）、地産地消の意識、共食
D (悪化5%以上)	2	主食・主菜・副菜の組合せ、肥満（20～60歳代男性）

1. 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている人の割合（D）

- ・46.1%（R3）→40.1%（R8）と悪化。複数の要因が影響していると考えられる。
- ・野菜価格高騰の影響（情勢要因）：野菜を「全然食べていない」理由として「価格が高い」という回答が12ポイント増えている。主食・主菜・副菜をそろえたとしても、野菜が高いため副菜を一品減らすなどの行動がとられている可能性がある。
- ・情勢以外の構造的要因：食事の用意が面倒（時間的ゆとりの不足）、野菜に対する苦手意識などが挙げられる。

2. 20～60歳代男性の肥満の割合（D）

- ・32.6%（R3）→38.3%（R8）と悪化。
- ・働き盛り世代は保健指導との接点が少なく、外食・不規則勤務・長時間労働の影響を受けやすい。
- ・アンケートのクロス集計から、肥満傾向の人は野菜の摂取が不足している傾向が示唆されている。
- ・＜参考＞NDBデータ：北海道の40～60歳代男性肥満は41.6%（R5）、東胆振の同条件は43.4%（R5）。
- ・一方で、性別や年代を問わずアンケート全体を見ると、高齢女性における、やせの傾向も注視すべき課題として見受けられる。

3. 15歳以上の朝食を毎日食べている人の割合（C）

- ・69.5%（R3）→69.2%（R8）と－0.3ポイントでほぼ横ばい推移。
- ・朝食を欠食する層が固定化している。目標81.3%との差は約12ポイント。

4. 3歳児の肥満の割合（A）

- ・肥満割合 5.8%（R3）→5.6%（R8）。乳幼児健診でほぼ全数に近い把握機会が確保されており、保健師等による個別指導が行き届きやすい。

◆目標評価からいえる主な課題

- ・主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の実践率低下（D評価）、男性の肥満の悪化（D評価）および小中学生における肥満の固定化。
- ・15歳以上における朝食欠食層の固定化。